

おかやまの木を使った家づくり

岡山には、「良い木をつくりたい」「良い住宅をつくりたい」など、志の高い人材と優れた技術を備えたネットワークがあります。長く住み継いでゆくには地域の人の存在が欠かせません。地域の素材や地域の人と家づくりをすることは、流通や維持コストを抑えることにつながり、より適正な価格で品質の高い家を実現できます。また、次世代に渡り住み継げる家は価格以上の価値につながります。本物の素材と技術が、地域の人とネットワークによって支えられて、「おかやまの木を使った家づくり」が実現できます。

おかやまの木を使う

誇りの持てる「みまさか桧の構造材」と「杉や松」などの岡山の木を使い、健康的で環境に貢献できる家づくりとする



快適で健康的な住宅を造る

本物の素材は手触りや足ざわりが良く、素材自体の持つ断熱性能、調湿性能が快適な家づくりとする



地域の気候風土に合い地域の人とモノでつくる

地域の気候風土に合い、地域の人による次世代にも継承できる家づくりとする



おかやまの木といえばこの三種類

杉

●【スギ】針葉樹／スギ科

—暖かみがありさっぱりとした感触—

スギの名前は「直ぐ」からきているといわれ、大地から真っ直ぐに伸びている。丸太の外側に近いところの材は白く、心に近い材は濃い赤色でその境目ははっきりしている。針葉樹の中でも特にやわらかいため冬は暖かみがあり、夏はさっぱりとしていて素足の感触が良い。クセのない香りも親しみやすい。

桧

●【ヒノキ】針葉樹／ヒノキ科

—緻密な木肌で独特の香り—

ヒノキの名前は「火の木」つまり火起こしに使う木に由来するといわれている。狂いが生じにくい特性をもち、古くから建築材に用いられてきた。丸太の外側に近いところの材は黄白色で、心に向かってだんだんと淡いピンクがかかった白色になっていく控えめな表情。艶のある緻密な木肌で独特の香りも人気がある。

松

●【アカマツ】針葉樹／マツ科

—強度があり力強い印象—

アカマツは丸太材として民家などに古くから用いられてきた。全体的に黄色がかかった白色。木目がはっきりしていて大きな節が力強い印象。節のある板目は「洋」の印象にも「和」の印象にもなる。他の針葉樹に比べて重厚で強度があり、足触りも硬い。

おかやまの木とは

岡山県内の木材業者や製材業者が製材した県産材製品をおかやまの木としています。

岡山県の森林面積は484千haと県土の7割を占め、このうち9割が民有林となっています。民有林における人工林の占める割合は4割であり、建材に使用できる木がたくさん育っています。

人工林（民有林）の樹種別面積は、桧68%、杉21%と、桧の方が豊富にあります。いずれにしても岡山の森林環境を守るには、民間での使用推進がかかせません。